

第5章 施策を横断する重点的な取組

1 北九州市版むらづくり活動の活性化

本市の農業・農村には、農業者の減少や高齢化、遊休農地の増加、ため池や水路など農業施設の老朽化等、将来にわたって持続可能な農業の実現を脅かす様々な課題が存在しています。

これらの課題を解決するには、農業者個人がそれぞれ解決策を講じるだけでは、その効果に限界があります。このため、地域の農業者や土地所有者などの関係者が一堂に会して、主体的に地域農業の将来に関する話し合いを行い、関係者間の合意形成を経た上で、問題を解決する方策に順序立てて取り組んでいく必要があります。

本市ではこのような地域の合意形成を図る場である北九州市版「むらづくり活動」を問題解決の出発点と捉え、担い手への農地集積、遊休農地の再生、新たな耕作者の受け入れ、農地整備や農業施設の計画的な維持補修といった施策を横断する様々な解決策の実施に結び付け、実効性の高い施策の実施と豊かな農村社会の実現を目指します。

(1) 地域における課題の例

- 農業者の減少、高齢化の進展
- 遊休農地の増加
- 担い手の不在、農地の貸し手・借り手のミスマッチ
- 経営農地の分散や狭小農地に起因する生産効率の低迷
- ため池・水路・水門等の施設の老朽化
- 鳥獣被害の深刻化 など

(2) 解決策の例

- 地域農業の担い手の選定と担い手への農地集積
- 遊休農地の再生
- 新たな耕作者の受け入れ
- 農地の再整備
- 地域一体となった鳥獣被害対策の実施 など

(3) 期待される施策横断的な効果

- 地域リーダーの育成
- 農業・農村の活性化
- 生産規模の拡大や生産力の向上
- 農業施設の長寿命化やランニングコストの低減
- 農村地域の環境保全、鳥獣害の軽減 など

北九州市版むらづくり活動の活性化

1 北九州市版「むらづくり活動」の背景



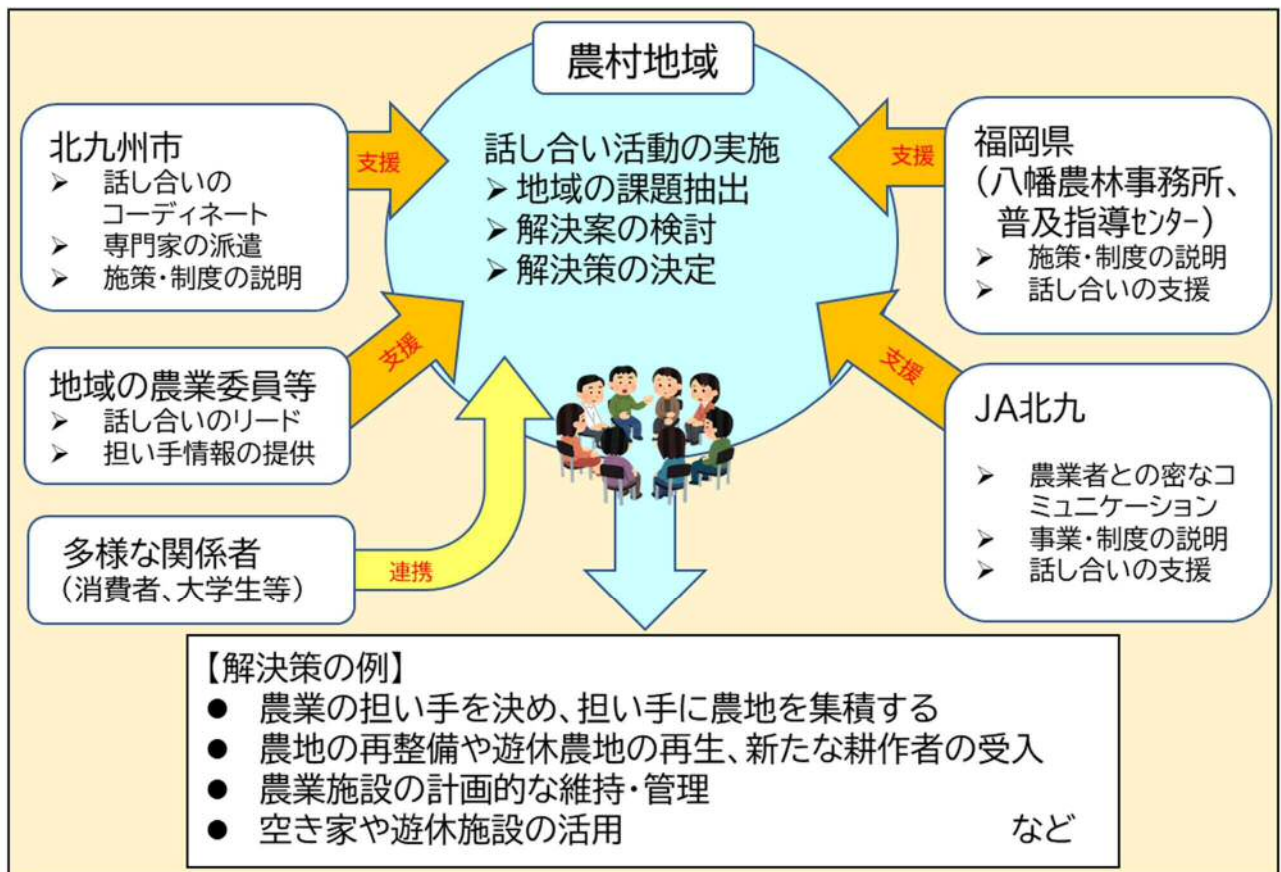
持続可能な農業に向けては
多くの問題が存在する

問題解決には、
地域での意思決定が必須

地域における話し合い
「むらづくり活動」が重要となる

都市と農村地域とが近接する都市型農業という北九州市の特徴を生かし、関係機関だけでなく、多様な関係者(消費者や大学生など)が連携し、農村地域の課題解決に向けた話し合いを支援する。

2 北九州市版「むらづくり活動」の体制



3 期待される活動の効果

- 多様な担い手の参画による農業・農村の活性化 I-1 III-1
- 農地の再生、生産力の向上 I-2 II-1
- 農道や水路などの適正管理や長寿命化 II-1
- 基盤整備等による大区画化及び担い手への農地集積 I-2 II-1
- 農村地域の環境保全、鳥獣被害の防止 II-2 III-2



(注)資料中の I-1 などの表示は農林水産業振興計画の施策体系番号を表す

2 多様な主体が農林水産業を担う仕組みづくり

近年、性別や年齢、人種や国籍、障がいの有無、宗教・信条などの価値観に加えて、キャリアや経験、働き方など、様々な場面で多様性を尊重し、多様な人材を活用することが求められています。

農林水産業の分野でも、半農半Xなど他の仕事をしながら農林水産業も営むことを希望する移住者や、生きがいや自信につながる社会参画の場を求めている障害者など多様な人々が農林水産業の担い手として活躍できる可能性があります。

このため、これからは生産活動の中核となる認定農業者などのプロフェッショナルな生産者に加え、半農半Xや二地域居住を実践する人など、多様な人材を農山漁村に呼び込み農林水産業に関わってもらふことが必要です。

(1) 仕組みの概要

①タイムリーな情報提供

ア 本市の農林水産業や農山漁村生活に関心を持つ人々にSNSなどを活用して就業や移住がイメージできる情報を届けます。

イ 産地見学会などを通じて、多様なプレイヤー間の交流を活性化します。

ウ 農福連携や二拠点居住など、多様性を活かした活動に関する情報を収集・発信します。

②ワンストップの支援体制

ア 関係機関で情報を共有することで、相談から就業までをワンストップで受け止める支援体制を構築します。

イ 農業技術研修の実施や研究成果の公開、スマート農業技術の展示など、総合農事センターを「農のショールーム」として活用します。

(2) 期待される施策横断的な効果

①多様な担い手が農林水産業に参入することにより、従事者数が増加し、農山漁村における関係人口の増加につながります。

②多様な担い手が農林水産業で活躍することで、農地やため池、水路などの生産インフラが安定的に維持管理できるほか、生産規模の拡大も可能になります。

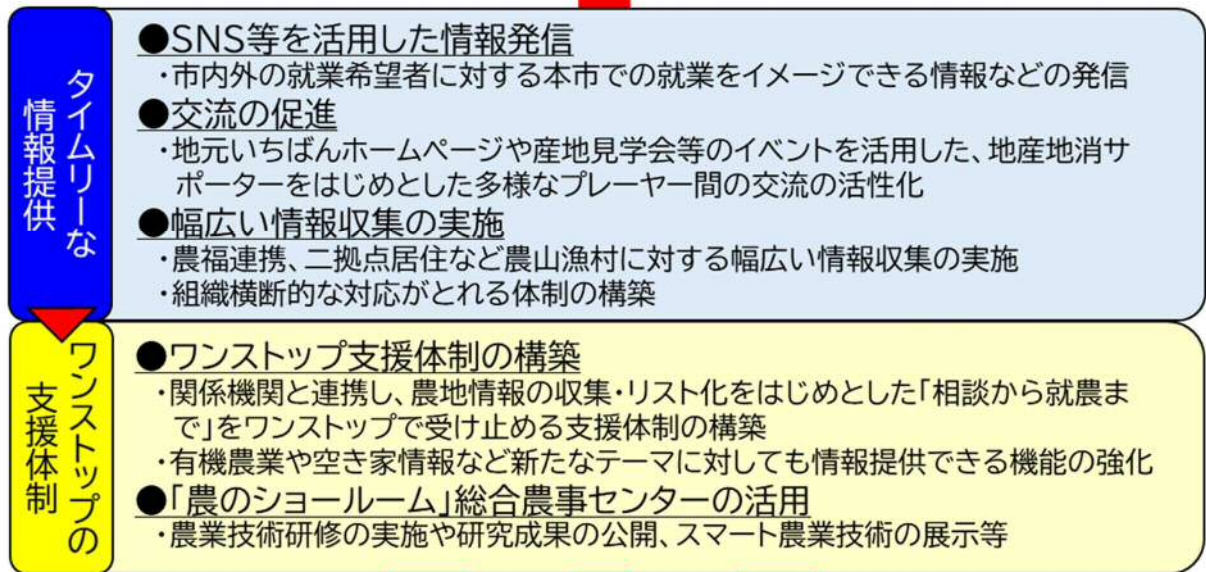
③多様な担い手が交流を進めることで、様々な立場の人々による相乗効果が生まれ、「農山漁村発イノベーション」が創造されることが期待できます。

多様な主体が農林水産業を担う仕組みづくり

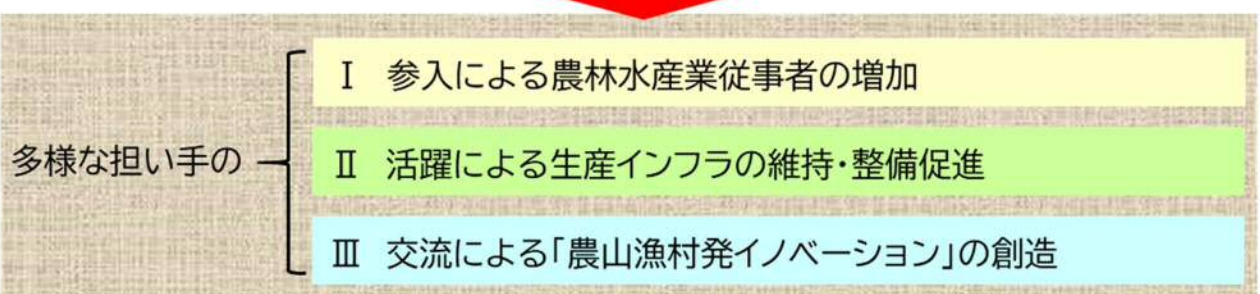
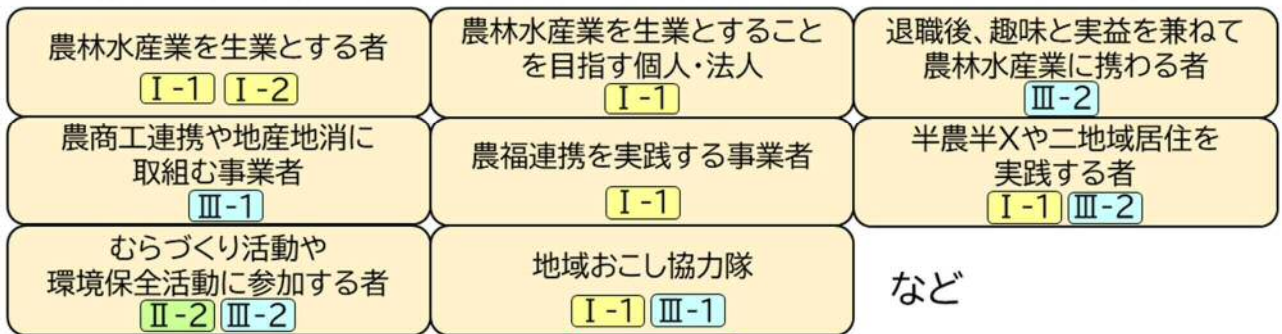
農林水産業に〔・関係する ・関心を持つ〕 様々な主体



1 多様な主体が関わる仕組み



2 多様な主体を多様な担い手(農林水産業や農山漁村の暮らしを支えるもの)に



(注)資料中の I-1 などの表示は農林水産業振興計画の施策体系番号を表す

3 スマート技術の導入による生産流通体制の効率化

高齢化や労働力不足が進む中で農林水産業の生産を効率化するためには、生産から流通の現場で依然として多く残っている人手に頼る作業や熟練者でなければできない作業を自動化、省力化していく必要があります。そこで、ロボット技術や情報通信技術（ICT）などを活用して生産性の向上や技術の継承、環境負荷の軽減等を図る取組をすすめていきます。

（１）農業におけるスマート技術導入の方向性

国の事業を活用してスマート農業の実証に取り組むほか、展示会の開催等によりスマート農業技術に関する情報を発信します。また、実証の成果を踏まえ、スマート農業技術の導入支援策を検討し、生産性の高い農業を実現できる環境作りを目指します。

（２）水産業におけるスマート技術導入の方向性

最新の観測機器を活用した調査により、魚礁や天然礁の位置、水産生物の生息状況や資源量を高精度に把握することにより、生産性を向上しながら適切な水産資源の管理を行います。

スマート技術の導入による生産流通体制の効率化

1 スマート技術の導入の背景と効果(農業)

農業の現場は人手や熟練を要する作業が多いため、**省力化や人手の確保、負担軽減が課題**となっており、**スマート技術の導入による課題解決が期待される**

スマート農業技術の導入による効果の例

◆ 農作業の省力化 I-1 I-2

ドローンや自動運転農機などの活用
→省力化による規模拡大 女性・高齢者の活躍拡大



◆ 生産性の向上 I-2 II-1

情報通信技術(ICT)を活用し、作物の生育管理を行う
→品質、収量向上による所得増加 気象災害等の被害軽減



◆ 栽培技術の継承 I-1 I-2

熟練農業者の技術のデータ化により、新規就農者でも短期間で技術を習得
→新規就農者の増加 品質、収穫量の向上



◆ 環境負荷の低減 II-2

センシングデータ等の活用によるピンポイント散布
→農薬・肥料の適切な利用によるCO2の排出削減



◆ 物流の効率化 II-2 III-1

生産から流通・加工・消費・販売までのデータ相互利用
→需給マッチングによる食品ロス削減 共同輸送によるCO2の排出削減



(注)資料中の I-1 などの表示は農林水産業振興計画の施策体系番号を表す

2 本市農業へのスマート技術の導入

一部農家でドローンを活用した農薬散布やセンサーの活用などがみられるが、**本市全体としてはスマート技術の導入は進んでいない状況である。**

令和3年度

「北九州市スマート農業ミーティング」(農家や学識経験者、企業などで構成)において、市内6地域の地域性に合致したスマート農業について類型化を実施。

【類型化の例】

地区 (生産物)	農業機器の自動化・ インテリジェント化	センサ等汎用 ICT製品の応用	画像・センサ・衛星 などのデータ解析	業務情報管理 ソフトウェア
小倉南区 (たけのこ+水稻)	スマート台車	獣害検知センサ	収穫判断アシスト	地図による ほ場管理
若松区 (露地野菜)	自動定植機 自動運転トラクター	ドローン(散布) 気象センサー	ドローン (リモートセンシング)	業務管理システム

令和4年度以降～

- ・ 国のプロジェクトを活用した実証事業
 - ・ 情報発信や技術展示などの啓発事業
 - ・ スマート技術の導入に対する補助事業
- などを実施し、スマート技術の普及を図っていく。